

第9節 家庭

第1 家庭科の基本事項

1 改訂の趣旨

(1) 現行学習指導要領の成果と課題

家庭科、技術・家庭科[家庭分野]においては、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、児童生徒の学習への関心や有用感が高いなどの成果が見られる。一方、家庭生活や社会環境の変化によって家庭や地域の教育機能の低下等も指摘される中、家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。

(2) 高等学校における家庭科教育の内容の見直し

今後の社会を担う子供たちには、グローバル化、少子高齢化、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応するとともに、これらの諸課題を適切に解決できる能力が求められることから、高等学校における教育内容の見直しが示された。

2 改訂の要点

(1) 目標の改善

高等学校家庭科の目標については、実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を目指すとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が図られるよう、目標及び内容の改善・充実を図った。

(2) 科目の改善

高等学校家庭科においては、自立した生活者として必要な生活の科学的な理解や生活課題を解決する力の育成について一層の充実が求められる。

また、成年年齢が18歳に引き下げられたことを踏まえ、男女が協力して主体的に家庭を築き相互に支え合う社会の構築に向けて、家庭や地域の生活を創造しようとする態度や、主体的に地域社会と関わり参画しようとする態度を育成することが一層求められている。

特に、2020年度以降の入学生は、高等学校第3学年在籍中に、順次、成年(18歳)となる。そのため、成年を迎える前に消費者教育に関する内容を学習できるように、「家庭基礎」及び「家庭総合」の「C 持続可能な消費生活・環境」を、第1学年及び第2学年のうちに履修させる。

(3) 指導内容の改善と内容の取扱い

高等学校家庭科の指導内容は、小・中・高等学校の

系統性を踏まえ、内容構成を「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」、「B 家庭基礎：衣食住の生活の自立と設計／家庭総合：衣食住の生活の科学と文化」、「C 持続可能な消費生活・環境」に「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を加えた四つに整理された。

具体的な内容の改善については、次のとおりである。

- ① 少子化の進展に対応して、「家庭基礎」では、子育て支援、乳幼児と関わるための基礎的な技能、「家庭総合」では、子供の遊びと文化、子育て支援、子供の発達に応じた適切な関わり方の工夫などを充実させる。
- ② 高齢化の進展に対応して、いずれの科目においても高齢者の尊厳と介護（認知症含む）に関する内容を充実するとともに、「家庭基礎」では、高齢者の生活支援に関する基礎的な技能、「家庭総合」では、高齢者の心身の状況に応じた生活支援に関する技能などを充実させる。
- ③ 衣食住については、「家庭基礎」では、自立した生活を営むために必要な基礎的・基本的な内容に重点を置き、「家庭総合」では、生涯を見通したライフステージごとの生活を科学的に理解させることに重点を置き、いずれも、日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関わる内容を充実させる。
- ④ 消費生活・環境については、成年年齢の引下げを踏まえ、契約の重要性や消費者保護の仕組みに関する内容を充実させるなど、消費者被害の未然防止に関する内容を充実させる。
- ⑤ ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を引き続き重視するとともに、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習を充実させる。

3 家庭科の目標及び科目編成

(1) 共通教科「家庭」の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に

営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

今回の改訂においては、従前の共通教科「家庭」の目標の趣旨を継承するとともに、少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進、成年年齢の引下げ等への対応を一層重視した。そのため、生活を主体的に営むために必要な知識と技能を身に付け、課題解決能力、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養うことにより、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目標とした。

また、高等学校家庭科における「生活の営みに係る見方・考え方」は、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」とした。

さらに、家庭科で育成を目指す資質・能力を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って示した。

これらを偏りなく実現できるようにするため、実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、三つの柱を相互に関連させて、家庭科全体の資質・能力を育成することを目指している。

(2) 科目の編成と履修

従前の「家庭基礎」、「家庭総合」及び「生活デザイン」の3科目から内容を再構成し、「家庭基礎」、「家庭総合」の2科目とし、生徒の多様な能力、興味・関心等に応じて、いずれか1科目を選択的に履修させる。

共通教科「家庭」の科目構成

改訂後（平成30年告示）		改訂前（平成21年告示）	
科目名	標準単位数	科目名	標準単位数
家庭基礎	2単位	家庭基礎	2単位
家庭総合	4単位	家庭総合	4単位
		生活デザイン	4単位

「家庭基礎」は、高等学校の卒業段階において、自立した生活者として必要な実践力を育成することを重

視した基礎的な内容構成とした。

「家庭総合」は、従前の「家庭総合」や「生活デザイン」の内容を引き継ぎ、生涯を見通したライフステージごとの生活を科学的に理解させるとともに、主体的に生活を設計することや、生活文化の継承・創造等、生活の価値や質を高め豊かな生活を創造することを重視した内容構成とした。

いずれの科目においても、「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」に生涯の生活設計を導入として位置付けるとともに、成年年齢の引下げを踏まえ、「C 持続可能な消費生活・環境」において、契約の重要性や消費者保護に関する内容の充実を図った。

選択科目としては、高等学校学習指導要領第3章主として専門学科において開設される各教科第4節家庭の各科目が考えられる。

(3) 異校種間の連携

小学校家庭科、中学校技術・家庭科[家庭分野]については、次のとおり指導内容が改善された。

ア 小・中・高等学校の内容の系統性の明確化

児童生徒の発達を踏まえ、小・中学校においては、「A 家族・家庭生活」、「B 衣食住の生活」、「C 消費生活と環境」に関する三つに整理した。

イ 学校段階に応じた学習対象の明確化

家庭、地域、社会という空間的な広がり、これまでの生活、現在の生活、これからの生活、生涯を見通した生活という時間的な広がりから学習対象を捉えて指導内容を整理した。

	時間軸	空間軸
小学校	現在及びこれまでの生活	自己と家庭
中学校	これからの生活を展望した現在の生活	家庭と地域
高等学校	生涯を見通した生活	家庭と社会

ウ 学習過程を踏まえた内容の改善

生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視し、この過程を踏まえて基礎的な知識・技能の習得に係る内容や、それらを活用して思考力・判断力・表現力等の育成に係る内容について整理した。

小学校家庭科では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を目指している。今回の改訂では、「買い物仕組みや消費者の役割」を新設し、中学の消費者教育への接続をスムーズにした。

中学校技術・家庭科[家庭分野]では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可

能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力の育成を目指している。

なお、「小学校 家庭科」、「中学校 技術・家庭〔家庭分野〕」の学習内容は以下の表のとおりである。

○ 小学校 家庭科

A 家族・家庭生活
(1) 自分の成長と家族・家庭生活 (2) 家庭生活と仕事 (3) 家族や地域の人々との関わり (4) 家族・家庭生活についての課題と実践
B 衣食住の生活
(1) 食事の役割 (2) 調理の基礎 (3) 栄養を考えた食事 (4) 衣服の着用と手入れ (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 (6) 快適な住まい方
C 消費生活・環境
(1) 物や金銭の使い方と買い物 (2) 環境に配慮した生活

○ 中学校 技術・家庭〔家庭分野〕

A 家族・家庭生活
(1) 自分の成長と家族・家庭生活 (2) 幼児の生活と家族 (3) 家族・家庭や地域との関わり (4) 家族・家庭生活についての課題と実践
B 衣食住の生活
(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴 (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 (3) 日常食の調理と地域の食文化 (4) 衣服の選択と手入れ (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 (6) 住居の機能と安全な住まい方 (7) 衣食住の生活についての課題と実践
C 消費生活・環境
(1) 金銭の管理と購入 (2) 消費者の権利と責任 (3) 消費生活・環境についての課題と実践

第2 各科目の概要

1 「家庭基礎」

(1) 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問

題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

(2) 科目の性格

「家庭基礎」は、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と技能を身に付け、課題を解決する力を養い、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うことにより、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する科目である。

今回の改訂では、生涯の生活設計の学習を科目の導入として学習することで、現在を起点に将来を見通し、ライフステージに応じた衣食住の生活に関わる知識や技能の定着や、生涯にわたってこれらの力を活用して課題を解決できるよう内容の改善を図った。

内容の取扱いに当たっては、生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な学習活動の充実を図るとともに、生活の中から問題を見だしその課題を解決する過程を重視し、現在を起点に将来を見通したり、自己や家族を起点に地域や社会へ視野を広げたりして、生活を時間的・空間的な視点から捉えることができるよう指導を工夫する。

A 人の一生と家族・家庭及び福祉

生涯を見通し主体的に生活するために、家庭や地域社会の人々と協力・協働し、実践的・体験的な学習活動を通して、次のアからオまでの項目を身に付けることができるよう指導する。

ア 生涯の生活設計

人の一生を生涯発達の視点で捉え、各ライフステージの特徴などと関連を図ることができるように学習の導入として取り扱う。その際、家族、地域社会との関わりを通じて、より豊かな衣食住生活を営むための知識と技能を身に付けることが、生活設計の基礎となることを理解させ、単なるライフイベントの羅列に終わらないように留意する。また、AからCまでの内容と関連付け、まとめとしても扱う。

- (ア) 自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解させ、生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、自立した生活を営むために必要な情報を収集・整理し、責任を持って行動することの重要性を理解させる。

- (イ) 自分の目指すライフスタイルを実現するために、

ライフイベントと関連付け、具体的な事例について考察させ、生活設計を工夫できるようにする。その際、生活設計には社会的条件が大きく影響することに触れ、広い視野や、不測の事態に柔軟に対応する必要性を認識できるようにする。

イ 青年期の自立と家族・家庭

生涯発達の視点で青年期の課題を理解させるとともに、自立した生活を営むために、様々な生活課題に対して適切に意思決定し、責任をもって行動することが重要であることを認識できるようにする。

(7) 男女が協力して家庭を築くことの意義や、歴史的、文化的、社会的変化を関連させ、現代の家族・家庭の特徴を理解させる。その際、婚姻、夫婦、親子、相続など家族に関する法律や社会制度の基礎的な理解を手がかりとして、現代の家族・家庭の課題を経済や制度などの社会環境の変化と関連付けて多角的に理解させる。

(4) 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、家族の一員としての役割を果たし家庭を築く上で職業選択や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）などの具体的な事例、家族に関する法律、家族が社会制度として存在することの意味を関連付けて考察できるようにする。また、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことについては、固定的な性別役割分業意識を見直し、相互の尊重と信頼関係のもとで夫婦関係を築くために、共に協力して家庭をつくることの意義や重要性について考察できるようにする。

ウ 子供の生活と保育

学校や地域の実態に応じて、学校家庭クラブ活動などとの関連を図り、実践的な活動を取り入れるよう努める。また、家族・家庭の生活を支える福祉の基本的な理念に重点を置く。

(7) 乳幼児期の心身の発達の概要と関連、乳幼児期の遊びや生活習慣の形成などの生活、親や家族が果たす役割について理解させる。

(4) 子供を生み育てることの意義について考えさせ、子供の健やかな発達のために親や家族及び社会の果たす役割の重要性について考察できるようにする。

エ 高齢期の生活と福祉

生活支援に関する基本的な技能を身に付けることができるよう、体験的な学習活動を行う。

(7) 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護、認知症について理解させる。その際、車椅子、食事、着脱衣の介助などを高校生同士が体験的に学習することで、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けさせる。

(4) 高齢者の自立生活を支えるために、家庭や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察できるようにする。

オ 共生社会と福祉

自助、共助及び公助の重要性について理解させるとともに、互助も含めたつながりの重要性について理解できるようにする。

(7) 人の一生を見通して、家族・家庭の生活課題を主体的に解決していくために必要な福祉や社会的支援について理解させる。その際、共に支え合いながら生きていくことの必要性、関連する現代の社会の現状についても理解させる。

(4) 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察できるようにする。また、社会の一員として主体的に行動する意思決定能力を身に付け、家庭や地域及び社会の生活を創造するための課題について考察できるようにする。

B 衣食住の生活の自立と設計

健康・快適・安全な衣食住の生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して、次のアからウまでの項目を身に付けることができるよう指導する。

ア 食生活と健康

栄養と食事、食品と調理など食生活に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付けることができるよう、実験・実習を中心とした学習活動を行う。

(7) ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解させるとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な情報収集させ、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けさせる。その際、配膳や食事マナーも理解させ、食物アレルギーにも配慮する。

(4) 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活を考察し、自己や家族の食事を工夫できるようにする。その際、食生活について問題を見だし、栄養、食品、調理の学習を相互に関連付けながら、食生活に関わる情報を適切に判断し、生涯を通して健康や環境に配慮した安全な食生活を主体的に営むことができるようにする。

イ 衣生活と健康

被服の機能と着装及び安全、計画・管理など基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、健康で快適な衣生活を営むことができるようにする。

(7) ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装を理解させ、健康と安全、環境に配慮し消費者とし

て必要な情報を収集・整理できるよう指導する。また、被服材料、被服構成、被服衛生について理解させ、計画・管理など生活者として自立する上で必要な技能を身に付けさせる。

- (4) 被服の機能性や快適性、安全で健康や環境に配慮した被服の管理、目的に応じた着装についての課題を解決するために、よりよい衣生活の創造について考え、工夫できるようにする。その際、高校生の着装に対する関心と衣生活の実態に即した内容となるよう留意する。

ウ 住生活と住環境

住生活に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、生涯を通して防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫できるようにする。

- (ア) ライフステージに応じた住生活の特徴、防火、防犯、防災、耐震などの安全性や日照、採光、換気、遮音、温熱、空気、高齢者、障害者などへの配慮など住生活に関わる基礎的・基本的な知識と、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けさせる。
- (イ) 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて考察させ、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築などの視点から、よりよい住生活の創造について考え、工夫できるようにする。

C 持続可能な消費生活・環境

家族・家庭や福祉、衣食住等の内容と相互に関連付けながら、実践的・体験的な学習活動を通して、環境に配慮して持続可能な社会を目指したライフスタイルと、生涯を見通した生活設計について考察することができるようにする。

また、成年年齢の引下げに伴い、自主的かつ合理的に社会の一員として行動する自立した消費者の育成のため、消費生活に関わる内容について指導の充実を図る。

ア 生活における経済の計画

生活の基盤としての家計管理の重要性、家計と経済の関わりや将来にわたる不測の事態に備えた経済計画について考察できるようにする。

- (ア) 可処分所得や非消費支出の分析など具体的な事例を通して、家計の構造を理解させるとともに、経済循環における家計の位置付けとその役割の重要性について理解させる。また、収支バランスの重要性や、リスク管理の必要性を踏まえた家計管理の基本について理解させる。その際、生涯を見通した経済計画を立てるには、教育資金、住宅取得、老後の備えの他にも、事故や病気、失業などリスクへの対応が必要であることを取り上げ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリ

ット、デメリット）、資産形成の視点にも触れる。

- (イ) 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、各ライフステージの特徴と課題、家族構成や収入・支出の変化、生涯の賃金や働き方、社会保障制度などと関連付けながら考えることができるようにする。

イ 消費行動と意思決定

近年の消費者問題や消費者の権利と責任について理解させ、自立した消費者として適切な意思決定に基づいて行動できるようにする。

- (ア) 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解させる。特に、契約については、多様な契約やその権利と責任について取り上げるとともに、消費者信用及びそれらをめぐる問題などを扱い、未成年・成年の法律上の責任の違い（未成年者取消権の有無）、消費者被害の未然防止の重要性について理解させる。
- (イ) 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや、消費生活が環境や社会に及ぼす影響について考察し、持続可能な社会の構築に向けて、身近な消費生活をよりよくしようと工夫できるようにする。

ウ 持続可能なライフスタイルと環境

持続可能な社会を目指し、身近な消費生活から参画し、消費活動によって地球環境保全に貢献できるライフスタイルを工夫できるようにする。

- (ア) 日常の生活が地球環境問題やグローバル社会における諸問題と密接に関わっていることを理解させ、その解決に向けて、持続可能な消費や、持続可能な社会へ参画することの意義について理解させる。その際、国際連合が定めた持続可能な開発目標（SDGs）など国際的な取組について取り上げ、大量生産、大量消費、大量廃棄に至っている消費社会の現状から、その重要性を理解させる。
- (イ) 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるように、安全で安心な生活と消費について考察するとともに、自らの消費行動によって環境負荷を低減させ、進んで地球環境保全に貢献できるライフスタイルを工夫することができるようにする。その際、衣食住生活で環境負荷を少なくする工夫として、食生活においては環境に配慮した調理の実践、食品ロスなど、衣生活においてはクールビズやウォームビズなど、住生活においては省エネルギーなどを取り上げたりするなど、生徒が身近な事例と関連付けて考察できるようにする。

D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ

高等学校家庭科の特色であるホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解させ、実際に自己の家庭生活や地域の生活の中で実践できるようにする。

ア ホームプロジェクト

自己の家庭生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動を行う。

ホームプロジェクトを実践することによって、内容のAからCまでの学習で習得した知識と技能を一層定着し、総合化することができ、問題解決能力と実践的態度を育てることができる。

指導に当たっては、次の事項に留意する。

- ① 家庭科の授業の一環として、年間指導計画に位置付けて実施する。
- ② 家庭科の授業の早い段階において、ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解できるよう、家庭科の知識や技能を活用してホームプロジェクトを実施することを説明し、学習の見通しが立てられるように指導する。
- ③ 内容のAからCまでの指導に当たっては、中学校の「生活の課題と実践」を踏まえ、より発展的な取組になるように、学習内容を自己の家庭生活と結び付けて考え、常に課題意識をもち、題目を選択できるようにする。
- ④ 課題の解決に当たっては、まず、目標を明確にして綿密な実施計画を作成できるよう指導する。次に生徒の主体的な活動を重視し、教師が適切な指導・助言を行う。
- ⑤ 学習活動は、計画、実行、反省・評価の流れに基づいて行い、実施過程を記録させる。
- ⑥ 実施後は、反省・評価をして次の課題へとつなげるとともに、成果の発表会を行う。

イ 学校家庭クラブ活動

ホームルーム単位又は家庭科の講座単位、さらに学校としてまとまって、学校や地域の生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して、グループで主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動を行う。

学校家庭クラブ活動を実践することによって、内容のAからCまでの学習で習得した知識と技能を、学校生活や地域の生活の場に生かすことができ、問題解決能力と実践的態度の育成はもとより、ボランティア活動などの社会参画や勤労への意欲を高めることができる。

指導に当たっては、次の事項に留意する。

- ① 家庭科の授業の一環として、年間指導計画に位置

付けて実施する。

- ② 家庭科の授業の早い段階において、学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解できるよう、これから学習する家庭科の知識や技能を活用して学校家庭クラブ活動を実践することを説明し、学習の見通しが立てられるように指導する。その際、ホームプロジェクトを発展させ、学校生活や地域の生活を充実向上させる意義を十分理解できるように指導する。
- ③ ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、総合的な探究の時間など学校全体の教育活動との関連を図るようにする。
- ④ ボランティア活動については、地域の社会福祉協議会などとの連携を図るように工夫する。
特に、「家庭基礎」においては、単位数が少ないので効果的な指導を図るように工夫する。

2 「家庭総合」

(1) 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

(2) 科目の性格

「家庭総合」は、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と技能を体験的・総合的に身に付け、科学的な根拠に基づいて課題を解決する力を養い、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うことにより、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する科目である。

今回の改訂では、生涯の生活設計の学習を科目の導入として学習することで、現在を起点に将来を見通し、

ライフステージに応じた衣食住の生活に関わる理解や技能の定着はもとより、生活文化の継承・創造の観点から内容を充実するとともに、従前の「生活デザイン」の趣旨を継承し、生活の価値や質を高めつつ、豊かな生活を楽しむことができる実践力を育成することを重視して内容の改善を図った。

内容の取扱いに当たっては、生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な学習活動の充実を図るとともに、生活の中から問題を見だしその課題を解決する過程を重視し、現在を起点に将来を見通したり、自己や家族を起点に地域や社会へ視野を広げたりして、生活を時間的・空間的な視点から捉えることができるよう指導を工夫する。

A 人の一生と家族・家庭及び福祉

生涯を見通し主体的に生活するために、家族や地域社会の人々と協力・協働し、実践的・体験的な学習活動を通して、アからオまでの項目を身に付けることができるよう指導する。

ア 生涯の生活設計

人の一生を生涯発達の視点で捉え、各ライフステージの特徴などと関連を図ることができるように学習の導入として取り扱う。その際、家族、地域社会との関わりを通じて、より豊かな衣食住生活を営むための知識と技能を身に付けることが、生活設計の基礎となることを理解させ、単なるライフイベントの羅列に終わらないように留意する。また、AからCまでの内容と関連付け、まとめとしても扱う。

(7) 生涯発達の視点に立って人の一生について乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解させる。また、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応した意思決定をし、様々な社会的条件の影響に柔軟に対応することの重要性について理解を深めさせる。さらに、生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解させる。その際、生活を支える社会保障制度や社会福祉について基本的な理念やその内容を理解させ、各ライフステージの課題と関連付けながら、適切に情報の収集・整理をさせる。

(4) 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察するとともに、生活資源を活用して生活設計を工夫できるようにする。

イ 青年期の自立と家族・家庭及び社会

生涯発達の視点で青年期の生き方を考え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めさせるとともに、自立した生活を営むために、

様々な生活課題に対して適切に意思決定し、責任をもって行動することが重要であることを認識できるようにする。

(7) 生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題と、青年期の課題である自己理解及び自立、職業選択、男女の社会的役割を理解させた上で、性別役割分業の見直し、多様なライフスタイルの受容、意思決定の必要性と責任について認識させる。また、経済や産業構造、制度など社会の影響を大きく受ける現代の家族・家庭の機能や、家事労働と職業労働を含めた家族関係、婚姻、夫婦、親子、相続等の法律、社会制度・福祉だけでなく、住民相互の助け合いやボランティア活動を含めた福祉などについて理解させるとともに、家族・家庭の意義の歴史的变化、文化や社会による特徴、社会との関わり、取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めさせる。

(4) 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することの重要性や、家族の一員としての役割を果たし家庭を築く上で職業選択、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）などの具体的事例、家族に関する法律、家族が社会制度として存在することの意味を関連付けて考察できるようにする。また、家族の生活と個人の生活を調整することの必要性や、各自が担う家庭での役割についても考察できるようにする。さらに、家族の人間関係を具体的な事例や演習をとおして、家族関係の在り方について考察できるようにする。

ウ 子供との関わりと保育・福祉

学校や地域の実態に応じて、学校家庭クラブ活動などとの関連を図り、乳幼児、低学年の児童との触れ合いや交流に努める。また、子供の福祉の基本的な理念に重点を置く。

(7) 乳幼児期の心身の発達の概要と関連、それを支える生活、子供の遊びの意義や重要性と文化、親や家族が果たす役割と社会全体で子育てを支援していくことの重要性、児童福祉の理念について理解させる。また、子供の発達に応じて適切に関わるため、月齢や年齢に合わせた技能を身に付けさせる。

(4) 子供を生き育てることの意義、親や家族及び地域や社会の役割の重要性について考察できるようにし、子供との適切なかかわりを工夫できるようにする。

エ 高齢期との関わりと福祉

高齢者の尊厳や自立の視点で、心身の状態に応じた生活支援のための技能を身に付けることができるよう、体験的な学習活動を行う。また、高齢者を支えるための家族、地域社会の役割について考察できるようにす

る。

(7) 高齢者の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けさせる。その際、食事、着脱衣、移動などの生活支援に関する技能をボディメカニクスの原則や福祉用具の種類や活用法を取り上げながら身に付けさせる。また、高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めさせる。さらに、高齢者福祉の基本的な理念に重点を置き、高齢者福祉施設や認知症介護経験者等による体験的な学習を取り入れ、認知症についても理解を深めさせる。

(4) 高齢者の自立生活を支えるために、家庭や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方を工夫できるようにする。また、介護保険制度、地域包括ケアなどの社会の課題を取り上げ、家庭や地域及び社会の果たす役割を具体的に考察できるようにする。さらに、適切な支援の方法や関わり方では、介護者と当事者の双方に負担の少ないよう科学的根拠に基づき考察し、場面に応じた対応ができるようにする。

オ 共生社会と福祉

自助、共助及び公助の重要性について理解を深めさせるとともに、互助も含めたつながりを重視し、具体的な事例を通して考察できるようにする。

(7) 生涯を通して家族・家庭生活を支える福祉や社会的支援、社会的制度、社会福祉の基本概念、共に支え合って生きる社会の考え方、支援体制の構造について理解させる。また、家庭と地域の関わりについて理解させるとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義と重要性について理解を深めさせる。

(4) 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察し、様々な人々との関わり方を工夫できるようにする。また、協力・協働の視点からどのような理念や社会的支援及びシステムが必要か、共に支え合う社会を実現するために個人や地域社会がどのような役割を果たし、つながっていけばよいかについて考察できるようにする。

B 衣食住の生活の科学と文化

健康・快適・安全な衣食住の生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して、次のアからウまでの項目を身に付けることができるよう指導する。

ア 食生活の科学と文化

食事と健康の関わりを中心に、生涯を通して環境に配慮した健康で安全な食生活を営むために必要な知識と技能を効果的に身に付けることができるよう、調理実習や実験を中心とした学習活動を行う。

(7) 食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人との関わりについて理解させる。食事と人との関係をはじめ、一人一人の食行動が社会や経済、環境などに与える影響や、古くから伝わる年中行事、地域の気候や風土等と食事の関係等を考察させ、食文化の継承・創造を担う一員として自覚させる。また、ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解させるとともに、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けさせる。さらに、おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解させ、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けさせる。その際、配膳や食事マナーも理解させ、食物アレルギーにも配慮する

(4) 主体的に食生活を営むことができるよう健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造について考察させ、工夫できるようにする。また、日本の食文化の継承・創造については、我が国の食生活の変遷を通して、和食や地域の食文化に根ざした郷土料理の実習を取り入れるなどして、古くからの食文化に蓄積された知恵や経験について考えることができるようにする。

イ 衣生活の科学と文化

健康で快適な衣生活を目指し、被服の機能を理解したり、被服管理及び目的に応じた着装を工夫したりするために実験・実習を中心とした学習活動を行う。

(7) 衣生活の科学と文化について、被服と人との関わりを踏まえながら、各ライフステージの衣生活の特徴や課題について理解し、生涯を見通した衣生活の管理、自己と家族の衣生活に必要な情報の収集・整理をさせる。また、実験・実習を通して、被服材料、被服構成、身体を覆う「衣服」を中心とした被服製作、被服衛生及び被服管理などについて科学的に理解させる。

(4) 目的に応じた被服の機能と適切な着装について理解を深め、健康で快適な衣生活を主体的に営むことができるようにする。その際、高校生の着装に対する関心と衣生活の実態に即した内容となるよう留意する。また、日本と世界の衣文化に関心を持たせ、伝統文化に蓄積された知恵や経験を現代に生かすことができるように、日本の衣文化の継承・創造につ

いて考察し、工夫できるようにする。

ウ 住生活の科学と文化

安全で環境に配慮した住居と住生活を目指し、住居の機能を理解させるとともに、住居と地域社会との関わりを考えさせ、実験・実習を中心とした学習活動を行う。

(7) 日本の住宅事情や住宅政策等の住生活を取り巻く現状、日本と世界の住文化について理解させる。その際、日本の伝統的な生活文化である和室や日本建築・家屋等にも触れる。また、ライフステージに応じた住生活の特徴や安全性、自然災害や事故などに対応した安全な住宅について、具体的にどのような点を考慮すべきか、その概要を科学的に理解させる。特に、地震防災については、住宅の耐震性向上と室内の安全対策の両面から地震被害を抑える対策を理解させる。家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画については、省エネルギー住宅・創エネルギー住宅、環境共生住宅などを取り上げ、生涯を見通して生徒自身が住居の計画・購入等を通じて地球環境の保全を実現するために考察させる。また、リフォームやリノベーションなどを理解し、住宅のストックを活用し、住宅の耐久性を高めることの重要性を理解させる。

(4) 健康・快適・安全、持続可能な社会の構築などの視点から、ライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり、日本の住文化の継承・創造について考察できるようにする。

C 持続可能な消費生活・環境

家族・家庭や福祉、衣食住等の内容と相互に関連付けながら、環境に配慮して持続可能な社会を目指したライフスタイルと生涯を見通した生活設計について考察するなどの指導を工夫する。その際、外部講師や関連施設と連携を図ったり、ロールプレイやケーススタディなどの演習を工夫したりして、実践的な体験活動を取り入れることによって、理解を深めることができるようにする。

また、成年年齢の引下げに伴い、自主的かつ合理的に社会の一員として行動する自立した消費者の育成のため、消費生活に関わる内容について指導の充実を図る。さらに、消費生活と環境を関連させて学習させ、消費者市民社会の担い手として、自覚をもって責任ある行動ができるようにする。

ア 生活における経済の計画

家計の構造や経済全体の仕組みと関わりを理解させ、主体的な資金管理の在り方やリスク管理の考え方を導入した経済計画の重要性について気づき、工夫できる

ようにする。

(7) 可処分所得や非消費支出の分析など具体的な事例を通して、家計の構造を理解した上で収支バランスの重要性とともに、家計管理の基本について理解させる。その際、キャッシュレス社会が家計に与える利便性と問題点について扱うとともに、経済循環における家計の位置づけ、その役割の重要性、特徴について、統計資料等を活用して現状を理解させる。さらに、将来の予測が困難な時代におけるリスク管理の考え方について理解させ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品のメリットとデメリット、資産形成の視点にも触れながら、将来を見通した経済計画の重要性について理解させる。また、経済の管理や計画に関連した適切な情報を収集し、ICTや統計資料等を活用して整理できるようにする。

(4) 人生を通して必要となる費用はライフステージごとに異なることについて、将来の生活設計と関連付けて考察する。その際、リスク管理の考え方を取り入れ、社会保障制度なども関連付けて工夫することができるようにする。

イ 消費行動と意思決定

近年の消費者問題や消費者の権利と責任について理解させ、自立した消費者として適切な意思決定に基づいて行動できるようにする。

(7) 消費行動における意思決定には、問題の自覚、情報収集、解決策の比較検討、決定、評価などの過程があることを理解させ、金銭、時間、エネルギーなどの資源の適切な活用とともに、社会的影響力も意識したよりよい社会の構築を目指した意思決定の重要性についても理解させる。また、財・サービスを購入する際には、質、価格などとともに、安全性、機能性、耐久性、操作性や環境、社会的公平性などに関する項目などを比較検討し、批判的思考に基づいて主体的に意思決定できるようにする。さらに、適切な意思決定による消費行動によって意見を表明することが消費者の責任であり、権利を行使することにつながることを理解させる。消費者信用による多重債務、電子商取引などの進展に伴って生じている問題、若年者が被害者になりやすい消費者問題についても扱い、消費者の自立と支援について理解させる。特に、契約については、売買契約の他に多様な契約があることを理解し、未成年・成年の法律上の責任の違い（未成年者取消権の有無）について理解させるとともに、消費者被害の未然防止の重要性及び具体的な救済方法について理解させる。

(4) 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切

な意思決定に基づいて行動することや、持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活をよりよくするために、ロールプレイやケーススタディなどの演習を通して考察できるようにする。

ウ 持続可能なライフスタイルと環境

持続可能な消費について理解させた上で、生活文化と関わらせて考察し、持続可能な社会の構築に向けて、自らの消費生活から参画できるようにする。

(7) 日常の生活が地球環境問題やグローバル社会における諸問題と密接に関わっていることを理解させる。その際、家庭や地域においてもものを大切にしている生活観、例えば「もったいない」という伝統的な価値観や、「地球規模で考え、地球規模で行動する」(Think globally, Act locally)の意味を認識させ、環境保全のためには、消費者一人一人の生活意識やライフスタイルを見直すことも必要であることに気付かせる。また、国際連合が定めた持続可能な開発目標(SDGs)などとの関わりについて取り上げ、国際的な視点から、大量生産、大量消費、大量廃棄に至っている消費社会の現状や持続可能な消費の重要性を理解させる。

(4) 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるように、安全で安心な生活と消費について生活文化と関わらせながら多面的・多角的に考察するとともに、生産と消費の在り方を含めてどのようなライフスタイルの工夫ができるか具体的に考察し、実践に結び付けることができるようにする。

D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ

高等学校家庭科の特色であるホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解させ、実際に自己の家庭生活や地域の生活の中で実践できるようにする。

ア ホームプロジェクト

自己の家庭生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動を行う。

ホームプロジェクトを実践することによって、内容のAからCまでの学習で習得した知識と技能を一層定着し、総合化することができ、問題解決能力と実践的態度を育てることができる。

指導に当たっては、次の事項に留意する。

- ① 家庭科の授業の一環として、年間指導計画に位置付けて実施する。
- ② 家庭科の授業の早い段階において、ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解できるように、家庭科の知識や技能を活用してホームプロジェクトを実施することを説明し、学習の見通しが立てられ

るように指導する。

- ③ 内容のAからCまでの指導に当たっては、中学校の「生活の課題と実践」を踏まえ、より発展的な取組になるように、学習内容を自己の家庭生活と結び付けて考え、常に課題意識をもち、題目を選択できるようにする。
- ④ 課題の解決に当たっては、まず、目標を明確にして綿密な実施計画を作成できるように指導する。次に生徒の主体的な活動を重視し、教師が適切な指導・助言を行う。
- ⑤ 学習活動は、計画、実行、反省・評価の流れに基づいて行い、実施過程を記録させる。
- ⑥ 実施後は、反省・評価をして次の課題へとつなげるとともに、成果の発表会を行う。

「家庭総合」の学びを生かし、テーマを変えて複数回ホームプロジェクトに取り組むなど自己の家庭生活における問題解決的な学習活動の機会を積極的に設定できるよう指導を工夫する。

イ 学校家庭クラブ活動

ホームルーム単位又は家庭科の講座単位、さらに学校としてまとまって、学校や地域の生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して、グループで主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動を行う。

学校家庭クラブ活動を実践することによって、内容のAからCまでの学習で習得した知識と技能を、学校生活や地域の生活の場に生かすことができ、問題解決能力と実践的態度の育成はもとより、ボランティア活動などの社会参画や勤労への意欲を高めることができる。

指導に当たっては、次の事項に留意する。

- ① 家庭科の授業の一環として、年間指導計画に位置付けるとともに、生徒が計画、立案、参加できるよう工夫する。
- ② 家庭科の授業の早い段階において、学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解できるように、これから学習する家庭科の知識や技能を活用して学校家庭クラブ活動を実践することを説明し、学習の見通しが立てられるように指導する。その際、ホームプロジェクトを発展させ、学校生活や地域の生活を充実向上させる意義を十分理解できるように指導する。
- ③ ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、総合的な探究の時間など学校全体の教育活動との関連を図るようにする。
- ④ ボランティア活動については、地域の社会福祉協議会などとの連携を図るように工夫する。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画作成上の配慮事項

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に当たっては、「知識及び技能が習得されるようにすること」「思考力・判断力・表現力等を育成すること」「学びに向かう力、人間性を涵養すること」が偏りなく実現されるよう、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通し、生徒の学びに有効な場面やタイミングを見極めながら、継続的に授業改善に取り組むことが重要である。

特に、本県で平成22年から取り組んでいる協調学習は、「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で有効な「学び」の一つである。

例えば、男女（家族）が協力して家庭を築くことの重要性について理解を深めるため、家事労働等を題材とした知識構成型ジグソー法などによる協調学習を実践する。

(2) 各科目についての配慮事項

ア 「家庭基礎」及び「家庭総合」の各科目に相当する総授業時数のうち、原則として10分の5以上を実験・実習に相当する。実験・実習には、調査・研究、観察・見学、就業体験、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流活動、消費生活演習などの学習活動が含まれる。

イ 実験・実習を行うに当たっては、被服実習室、食物実習室、家庭総合実習室などにおける施設・設備の定期点検及び整備を行い、安全管理や衛生管理を徹底するとともに、生徒の学習意欲を喚起するよう、資料、模型、視聴覚機器、情報通信機器などを整備し、学習環境を整える。

また、電気、ガスなどの火気、薬品、針、刃物などの安全に配慮した取扱いや、特に、食材、調理器具などの衛生的な管理と取扱いについての指導を徹底し、事故や食中毒等の防止に努める。食物アレルギーについては、正確な情報を把握するとともに、学校全体として共有し事故の防止に努める。

校外に出て実習などを行う際には、対象が乳幼児や高齢者など人である場合には、プライバシー等を含む相手に対する配慮や安全の確保などに十分配慮し、指導計画を綿密に作成し、生徒が高校生としての自覚と責任をもって行動し、所期の目的が効果的に達成されるよう、生徒指導にも十分留意する。

ウ 「家庭基礎」は、原則として、同一年次で履修させる。必履修科目としての基本的な性格を踏まえ、基礎的な学習内容で構成される標準単位数2単位

の科目であるので、選挙権年齢や成年年齢の引下げにも配慮し、できるだけ低学年で履修させる。また、実験・実習などの実践的・体験的な学習活動を通して科目の目標を達成することができるよう配慮し、指導の効果を高める。

エ 「家庭総合」を複数の年次にわたって分割して履修させる場合には、原則として、例えば、第1学年と第2学年で2単位ずつの分割履修をさせるなど、連続する2か年において履修させる。必履修科目としての基本的な性格を踏まえて構成される標準単位数4単位の科目であるので、選挙権年齢や成年年齢の引下げにも配慮し、できるだけ低学年で履修させる。また、実験・実習などの実践的・体験的な学習活動を通して科目の目標を達成することができるよう配慮し、内容の関連性や系統性に留意して指導の効果を高める。

(3) 地域や関係機関等との連携・交流

地域の幼稚園、保育所及び認定こども園、高齢者福祉施設、社会福祉協議会、消費生活センター、NPO法人などと連携・交流をすることは、知識や技能の定着を図ることはもとより、実感を伴った学習であり、主体的に考察できるようにするために有効である。特に乳幼児の発達や高齢者の心身の特徴、消費者問題などに関する理解を深める上で、地域の集団保育の場や高齢者関連施設、消費生活センター等を訪問したり、関係者を学校に招聘したりして連携・交流に努めることが大切である。

具体的な方法として、例えば、学校に乳児とその親を招き、生徒が実際に乳児と接したり、その親から子育ての話の聞いたりすること、近隣の幼稚園、保育所及び認定こども園を訪問し、子供たちと交流すること、地域の高齢者を学校に招き、地域の郷土料理の実習を通して交流し、伝統文化の継承・創造につなげること、国民生活センターや地域の消費生活センターを訪問したり、消費生活相談員等を外部講師として学校に招いたりして、消費者被害の未然防止につなげることなどが考えられる。

こうした地域や関係機関等との連携・交流、外部人材の活用に当たっては、学校や地域の実態に応じて、適切な時期や内容を検討するとともに、効率的・効果的に進めるために学校内外の協力体制を構築することが大切である。

(4) 障害のある生徒などへの指導の工夫

障害のある生徒などの指導に当たっては、個々の生徒によって、見えにくさ、聞こえにくさ、道具の操作の困難さ、移動上の制約、健康面や安全面での制約、発音のしにくさ、心理的な不安定、人間関係形成の困

難さ、読み書きや計算等の困難さ、注意の集中を持続することが苦手であることなど、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、個々の生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫することが必要である。その際、家庭科の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないよう留意するとともに、生徒の学習負担や心理面にも配慮する必要がある。

学校においては、個別の指導計画を作成し、必要な配慮を記載し、他教科等の担任と共有したり、翌年度の担任等に引き継いだりすることが必要である。

(5) 中学校技術・家庭科[家庭分野]や他教科との関連

中学校技術・家庭科を踏まえた系統的な指導に留意する。また、高等学校公民科、数学科、理科及び保健体育科などとの関連を図り、具体的な事例や実験・実習などの実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を通して理解できるよう配慮するとともに、全体として調和のとれた指導が行われるよう留意し、問題解決能力と実践的な態度を育てる。

(6) 資格等の取得

家庭科教育は、実践的・体験的学習を重視し、家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技能を身に付けさせることを目標としている。全国高等学校家庭科技術検定は、基礎的・基本的な被服製作や調理の技術、保育技術の定着を図るための指導法として全国規模で開発されたものである。いずれも文部科学省後援となっており、学習指導要領に準拠して内容の基準が定められている。

資格取得を目指すことによって、生徒に基礎的・基本的な知識と技能の習得を図り、成就感や達成感を味わう経験をさせることにより、個性・能力の伸長を図ることが望まれる。

2 内容の取扱いに当たっての配慮事項

(1) 問題解決的な学習の充実

各科目の学習を生かして、生徒が各自の家庭生活や地域の生活と結び付けて生活上の問題を見いだして、解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにし、問題解決能力の育成を図ることが重要である。なお、生徒が自分の生活に結び付けて学習する際には、多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえ、一人一人の生徒の実態を把握しプライバシー等に十分に配慮する。

指導に当たっては、内容AからCまでの学習と「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」との関連を図り、学習効果を上げるようにするとともに、計画的、系統的に取り扱うよう、指導計画に位置付ける。

(2) 言語活動の充実

生徒の思考力・判断力・表現力等を育む観点から、言語の能力を高める学習活動を重視する。各項目の指導内容との関わり及び他教科等との関連も踏まえ、次のような学習活動を指導計画に位置付ける。

① 知的活動に関すること

合理的な判断力や創造的思考力、問題解決能力の育成を図るため、衣食住などの生活における様々な事象や科学性を説明する活動や判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり、正解が一つに絞れない課題を考え、最適な解決方法を探究したりする活動

② 他者とのコミュニケーションに関すること

他者との会話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解し、他者と意見を共有し、互いの考えを深めることを通して協働的な関係を築くような活動

③ 感性や情緒に関すること

衣食住などの生活における様々な事象やものづくりなどに関する実践的・体験的な学習活動を一層重視し、その過程で様々な語彙の意味について実感を伴って理解させるような学習

(3) 食育の充実

高等学校における食の指導については、義務教育段階までの学習内容を十分把握することが重要である。その上で、生涯を見通した食生活を営む力を育むために、栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解し、食文化に関心をもつとともに、必要な知識と技能を習得し、環境に配慮した健康で安全な食生活を営む力を身に付けることができるよう、指導を工夫する。

指導に当たっては、題材を工夫し、調理実習を通して調理に関する知識と技能を身に付け、実生活への活用につながるようにする。

(4) 情報機器や情報通信ネットワークの活用

各科目の指導に当たっては、コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークなどを積極的に活用し、生活に関わる外部の様々な情報を収集して活用することやデータの整理など指導の各場面において、学習の効果を高めるようにする。

家庭基礎・家庭総合 比較表

家庭基礎	家庭総合
A 人の一生と家族・家庭及び福祉	A 人の一生と家族・家庭及び福祉
<p>(1) 生涯の生活設計</p> <p>*人の一生を生涯発達の視点で捉え、各ライフステージの特徴や課題と関連を図ることができるよう、この科目の学習の導入として扱う。</p> <p>*AからCまでの内容と関連付けるとともにこの科目のまとめとしても扱う。</p> <p>ア・自己と他者、社会との関わりとさまざまな生き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立した生活を営むために必要な生活資源に気付き、それらに関わる情報の収集・整理 ・生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定していくことの重要性 <p>イ・自分の目指すライフスタイルを実現するために、将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫する。</p> <p>(2) 青年期の自立と家族・家庭</p> <p>*生涯発達の視点で青年期の課題（自立や男女の平等と相互の協力）を理解させる。</p> <p>ア・現代の家族・家庭の機能と家族関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家庭と社会との関わり ・家族に関する法律や社会制度 <p>イ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき責任をもって行動することの重要性について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察する。 <p>(3) 子供の生活と保育</p> <p>*3(4)については、学校や地域の実態等に応じて、学校家庭クラブ活動などとの関連を図り、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流などの実践的な活動を取り入れる。</p> <p>*3(4)(5)については、家族・家庭の生活を支える福祉の基本的な理念に重点を置く。</p> <p>ア・乳幼児期の心身の発達と生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親の役割と保育 ・子供を取り巻く社会環境 ・子育て支援 ・乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能 <p>イ・子供を生み育てることの意義、親や家族及び地域や社会の役割の重要性について考察する。</p>	<p>(1) 生涯の生活設計</p> <p>*人の一生を生涯発達の視点で捉え、各ライフステージの特徴や課題と関連を図ることができるよう、この科目の学習の導入として扱う。</p> <p>*AからCまでの内容と関連付けるとともにこの科目のまとめとしても扱う。</p> <p>ア・自己と他者、社会との関わりとさまざまな生き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通して生活課題に対応し意思決定していくことの重要性 ・生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源に関わる情報の収集と整理 <p>イ・自分の目指すライフスタイルを実現するために、将来の家庭生活及び職業生活について考察するとともに、生活資源を活用して生活設計を工夫する。</p> <p>(2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会</p> <p>*生涯発達の視点で青年期の課題（自立や男女の平等と相互の協力、意思決定の重要性）を理解させる。</p> <p>ア・各ライフステージの特徴と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭の機能と家族関係 ・家族・家庭と法律 ・家庭生活と福祉 ・家族・家庭の意義 ・家族・家庭と社会との関わり ・家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題 <p>イ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき責任をもって行動することの重要性について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察する。 <p>(3) 子供との関わりと保育・福祉</p> <p>*学校や地域の実態等に応じて、学校家庭クラブ活動などとの関連を図り、幼稚園、保育所及び認定こども園などの乳幼児、近隣の小学生低学年の児童との触れ合いや交流の機会を持つよう努める。</p> <p>*乳幼児期から小学生低学年までの子供を中心に扱い、子供の発達を支える親の役割や子育てを支援する環境に重点を置く。</p> <p>*子供の福祉の基本的な理念に重点を置く。</p> <p>ア・乳幼児期の心身の発達と生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の遊びと文化 ・親の役割と保育 ・子育て支援 ・子供を取り巻く社会環境の変化や課題 ・子供の福祉 ・子供の発達に応じて適切に関わるための技能 <p>イ・子供を生み育てることの意義、親や家族及び地域や社会の役割の重要性について考察し、子供との適切な関わり方を工夫する。</p>

家庭基礎	家庭総合
<p>(4) 高齢期の生活と福祉</p> <p>*認知症などにも触れる。</p> <p>*生活支援に関する基礎的な技能を身に付けることができるよう体験的に学習を行う。</p> <p>ア・高齢期の心身の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を取り巻く社会環境 ・高齢者の尊厳と自立生活の支援・介護 ・生活支援に関する基礎的な技能 <p>イ・高齢者の生活を支えるための家族、地域社会の役割の重要性について考察する。</p> <p>(5) 共生社会と福祉</p> <p>*自助、共助及び公助の重要性について理解できるよう指導を工夫する。</p> <p>ア・家族・家庭を支える福祉・社会的支援</p> <p>イ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支えあって生活することの重要性について考察する。</p>	<p>(4) 高齢者との関わりと福祉</p> <p>*学校家庭クラブ活動などとの関連を図り、福祉施設などの見学やボランティア活動への参加をはじめ、身近な高齢者との交流の機会を持つよう努める。</p> <p>*生活支援に関する技能については、食事、着脱衣、移動など高齢者の心身の状況に応じて工夫できるよう実習を扱う。</p> <p>*高齢者福祉の基本的な理念に重点を置くとともに、認知症などの事例を取り上げるなど具体的な支援方法についても扱う。</p> <p>ア・高齢期の心身の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の尊厳と自立生活の支援・介護 ・高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能 ・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題 <p>イ・高齢者の自立生活を支えるために、家族、地域社会の果たす役割の重要性について考察し、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方を工夫する。</p> <p>(5) 共生社会と福祉</p> <p>*自助、共助及び公助の重要性について理解を深めることができるよう指導を工夫する。</p> <p>ア・家族・家庭を支える福祉・社会的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と地域との関わり ・さまざまな人が共に支え合って生きることの意義 <p>イ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支えあって生活することの重要性について考察し、様々な人々との関わり方を工夫する。</p>
<p>B 衣食住の生活の自立と設計</p>	<p>B 衣食住の生活の科学と文化</p>
<p>*自立した生活を営むために必要なライフステージに応じた衣食住の生活について、身に付けた知識や技能を実生活で活用できるよう、実験・実習の目的を明確にした指導を工夫する。</p> <p>*日本と世界の衣食住に関わる文化についても触れる。その際、日本の伝統的な和食、和服及び和室などを取り上げ、生活文化の伝承・創造の重要性に気付くことができるよう留意する。</p> <p>(1) 食生活と健康</p> <p>*栄養、食品、調理及び食品衛生との関連を図って扱う。</p> <p>*調理実習については食物アレルギーにも配慮する。</p> <p>ア・ライフステージに応じた栄養の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の栄養的特質 ・健康や環境に配慮した食生活 ・自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能 ・おいしさの構成要素 ・食品の調理上の性質 ・食品衛生 ・目的に応じた調理に必要な技能 	<p>*乳幼児期から高齢期に至るまでの生涯を見通したライフステージの衣食住の生活について、身に付けた知識や技能を実生活で活用できるよう、目的を明確にした実験・実習を中心とした指導を行い、学習内容の理解をより一層深め、問題解決力を育成することができるよう指導を工夫する。</p> <p>*日本の伝統的な和食、和服及び和室などを取り上げ、生活文化の継承・創造を扱う。</p> <p>(1) 食生活の科学と文化</p> <p>*栄養、食品、調理及び食品衛生との関連を図って指導する。</p> <p>*調理実習については食物アレルギーにも配慮する。</p> <p>*栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解できるようにする。</p> <p>ア・食と人との関わり（食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた栄養の特徴と課題 ・食品の栄養的特質 ・健康や環境に配慮した食生活 ・自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能 ・おいしさの構成要素 ・食品の調理上の性質 ・食品衛生 ・目的に応じた調理に必要な技能

家庭基礎	家庭総合
<p>イ・食の安全や食品の調理上の性質，食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画，健康や環境に配慮した食生活について考察し，自己や家族の食事を工夫する。</p> <p>(2) 衣生活と健康</p> <p>ア・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理 被服材料 被服構成 被服衛生 安全・環境に配慮した被服の計画・管理に必要な技能 <p>イ・被服の機能性や快適性について考察し，安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫する。</p> <p>(3) 住生活と住環境</p> <p>ア・ライフステージに応じた住生活の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災などの安全や環境に配慮した住居の機能 適切な住居の計画・管理に必要な技能 <p>イ・住居の機能性や快適性，住居と地域社会との関わりについて考察し，防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫する。</p>	<p>イ・主体的に食生活を営むことができるよう健康や環境に配慮した自己と家族の食事，日本の食文化の継承・創造について考察し，工夫する。</p> <p>(2) 衣生活の科学と文化</p> <p>*被服製作については，衣服を中心とした縫製技術が学習できる題材を扱う。</p> <p>*実験・実習を通して，被服材料，被服構成，被服製作，被服衛生及び被服管理などについて科学的に理解できるようにする。</p> <p>ア・被服と人との関わり（衣生活を取り巻く課題，日本と世界の衣文化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ライフステージに応じた被服の特徴と課題 身体特性と被服の機能及び着装 健康と安全，環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理 被服材料 被服構成 被服製作 被服衛生 被服管理 衣生活の自立に必要な技能 <p>イ・主体的に衣生活を営むことができるよう，目的や個性に応じた健康で快適，機能的な着装や日本の衣文化の継承・創造について考察し，工夫する。</p> <p>(3) 住生活の科学と文化</p> <p>ア・住まいと人との関わり（住生活を取り巻く環境，日本と世界の住文化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ライフステージに応じた住生活の特徴や課題 住生活の特徴，防災など安全や環境に配慮した住居の機能 住生活の計画・管理に必要な技能 家族のライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画 快適で安全な住空間の計画に必要な情報の収集・整理 <p>イ・主体的に住生活を営むことができるようライフステージと住環境に応じた住居の計画，防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり，日本の住文化の継承・創造について考察し，工夫する。</p>
<p>C 持続可能な消費生活・環境</p>	<p>C 持続可能な消費生活・環境</p>
<p>*A及びBの内容と相互に関連を図るよう工夫する。</p> <p>(1) 生活における経済の計画</p> <p>*将来にわたる不測の事態に備えた対応についても触れる。</p> <p>ア・家計の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活における経済と社会との関わり 家計管理 <p>イ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について，ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察する。</p>	<p>*A及びBの内容と相互に関連を図るよう工夫する。</p> <p>(1) 生活における経済の計画</p> <p>*キャッシュレス社会が家計に与える利便性と問題点を扱う。</p> <p>*将来にわたる不測の事態に備えた対応について具体的な事例にも触れる。</p> <p>ア・家計の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活における経済と社会との関わり リスク管理の考え方 経済の管理や計画に関連した情報の収集・整理 <p>イ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について，ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連付けて考察し，工夫できるようにする。</p>

家庭基礎	家庭総合
<p>(2) 消費行動と意思決定 *多様な契約やその義務と権利について取り上げるとともに、消費者信用及びそれらをめぐる問題などを扱う。</p> <p>ア・消費生活の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費行動における意思決定 契約の重要性 消費者保護のしくみ 生活情報の収集・整理 <p>イ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫する。</p> <p>(3) 持続可能なライフスタイルと環境 *環境負荷の少ない衣食住の生活の工夫に重点を置く。</p> <p>ア・生活と環境との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な消費 持続可能な社会へ参画することの意義 <p>イ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について考察し、ライフスタイルを工夫する。</p>	<p>(2) 消費行動と意思決定 *消費生活に関する演習（ロールプレイングやケーススタディなど）を取り入れるなど理解を深めることができるようにする。 *多様な契約やその義務と権利について取り上げるとともに、消費者信用及びそれらをめぐる問題などを扱う。</p> <p>ア・消費生活の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性 生活情報の収集・整理 消費者問題 消費者の自立と支援 契約の重要性 消費者保護のしくみ <p>イ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、責任ある消費について工夫する。</p> <p>(3) 持続可能なライフスタイルと環境 *生活と環境との関わりを具体的に理解させることに重点を置く。</p> <p>ア・生活と環境との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な消費 持続可能な社会へ参画することの意義 <p>イ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費及び生活文化について考察し、ライフスタイルを工夫する。</p>
<p>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>	<p>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>
<p>*AからCまでの学習の発展として実践的な活動を家庭や地域などで行う。 *年間指導計画に位置付けて実施する。 *中学校の「生活の課題と実践」を踏まえ、より発展的な取組になるようにする。 *「家庭基礎」は単位数が少ないので、効果的な指導を図るよう工夫する。</p> <p>ア・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施方法 <p>イ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。</p>	<p>*AからCまでの学習の発展として実践的な活動を家庭や地域などで行う。 *年間指導計画に位置付けて実施する。 *中学校の「生活の課題と実践」を踏まえ、より発展的な取組になるようにする。 *「家庭総合」の学びを生かし、テーマを変えて複数回ホームプロジェクトに取り組むなど自己の家庭生活における問題解決的な学習活動の機会を積極的に設定できるよう指導を工夫する。</p> <p>ア・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施方法 <p>イ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。</p>